



	2024-10
監督: 岡本喜八	
脚本: 橋本忍	
原作: 郡司次郎正『侍ニッポン』	
出演: 三船敏郎 / 新珠三千代 / 小林桂樹 / 伊藤雄之助 / 東野英治郎 / 八千草薫 / 稲葉義男 / 平田昭彦 / 江原達治 / 中丸忠雄 / 大辻伺郎 / 天本英世 / 黒沢年男 / 当銀長太郎 / 田村奈巳 / 市川高麗蔵 / 藤田進 / 寺島貢 / 志村喬 / 杉村春子 / 沢村いき雄	

👁️👁️ みどころ

「桜田門外の変」は日本史に残るエポックメイキングな暗殺事件だが、その実行犯は？それは井伊直弼が断行した「安政の大獄」に恨みを抱く水戸藩浪人たち！通説はそうだが、いやいや、実は・・・？

『赤ひげ』(65 年)に続く三船敏郎の主演作は、“やんごとなき血筋の落し胤”だという、名前だけは可愛い浪人・新納鶴千代の視点から、興味深いストーリーが続いていくので、目が離せない。

人生とは？人間とは？そして父子とは？それは何と皮肉なもの！大雪が舞う中でのダイナミックな殺陣に酔いしれながら、そんな思いをしっかりと噛みしめたい。

■□■『赤ひげ』に続いて三船敏郎が主演！■□■

三船敏郎を主演させた、黒澤明監督の『赤ひげ』(65 年)は大きな話題を呼んだヒューマン作だったため、私もある偶然からリアルタイムで見ることができた。それは、高校 1 年生の時だ。同作で、三船敏郎演じる「赤ひげ」こと新出去定の下で、医師の道を志す若者、保本登役を演じたのが、あまり似合わないちよんまげを結った加山雄三だった。そんな昭和 40 年代 (=1965 年代)に入ろうとしている時代に、『赤ひげ』の撮影後、最初の三船敏郎の主演作になったのが、東宝と三船プロダクションが共同で製作した本作だ。

もっとも、私は当時本作の存在を全く知らなかったが、その原作は郡司次郎正の『侍ニッポン』で、本作は 5 度目の映画化だそう。あらすじを読むと、井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」をテーマとした人間ドラマだが、さて、その内容は？出来は？

■□■「桜田門外の変」を、面白い人物、面白い視点から！■□■

桜田門外の変をテーマにした面白い映画は多い。その代表が、大沢たかお主演、佐藤純

彌監督の『桜田門外ノ変』（10年）（『シネマ 25』204 頁）だった。同作は、水戸藩士・関鉄之介を登場させ、彼の視点から「桜田門外の変」を描いた面白いものだった。それと同じように、本作もテーマは「桜田門外の変」だが、それを、新納鶴千代（三船敏郎）という名前は可愛らしいが性格も行動も荒々しい浪人を主人公として登場させ、彼の視点から「桜田門外の変」を描くものだ。

時代は徳川末期、安政 7（1860）年の 2 月。300 年も徳川平安の世が続くと、浪人（者）たちには雇い主さえいないらしい。そのため、新納は示現一流を修める剣の達人でありながら、日々の暮らしにもコト欠く有様で、ゆすり、たかり、用心棒の類で食いつないでいたいらしい。他方、井伊直弼（大老）といえ、安政の大獄（安政 5（1858）～6（1859）年）の断行者として有名。安政 5 年からなぜそれが起きたのかについては、「幕末史」の知識が必要だが、本作冒頭はそれを前提として、江戸城桜田門外を密かに偵察に訪れている水戸藩の浪人たちの姿が登場するので、それに注目！

■□■裏切り者は誰だ？怪しい奴は誰だ？あいつか？■□■

連日、桜田門の前で、登城する井伊直弼（松本幸四郎）を待ち受け、暗殺決行の機会を狙っている彼らの首領は、星野監物（伊藤雄之助）。彼らは今日も桜田門の前で待ち受けていたが、すべてを見透かしたかのように井伊は姿を現さないから、アレレ、アレレ……。そこで急浮上してきたのが、「裏切り者は誰だ？怪しい奴は誰だ？」というテーマだ。この「裏切り者は誰だ」というテーマは『ゴッドファーザー』シリーズ（72 年、74 年、90 年）でもよく登場していたが、マフィアでそれが重要な問題なら、井伊直弼の暗殺を狙う水戸藩の暗殺者集団でもそれは重要な問題だ。幸い暗殺の決行日だけは首領の星野の頭の中にあって口外されていなかったが、決行日を同士に告げる前に通報者＝スパイを始末しなければ！それは、暗殺者集団としては当然のことだ。

本作が面白いのは、物語のスタートからコトの経緯を文書で記録していること。その言葉は当時の言葉だからわかりづらいが、テープレコーダーも AI もないあの時代、その記録文書は実によくできているので、それにも注目！品川の宿屋で開いた同志たちの会合（総会）で、星野が内通者、裏切り者の存在を告げ、それを探ろうとすると、同志たちの視線は、なぜか端っこで 1 人座っていた新納の方へ……。あの男は剣術の腕は立つが、水戸藩ではなく、尾州浪人だ。それなのに、なぜこの暗殺集団に加わっているの？彼を同志に推薦したのは一体誰？彼は何の目的でこの集団に入っているの？そんな疑問が一気に新納の方に向けられたわけだが、それに対する新納の対応は……。？

■□■鶴千代は“やんごとなき血筋”の落し胤！その苦悩は？■□■

私は本作の原作を全然知らなかったが、中学高校時代によく読んだ小説の 1 つが柴田錬三郎の『眠狂四郎』シリーズだ。市川雷蔵主演でシリーズ化された同作は、円月殺法の使い手である眠狂四郎のニヒルさで大人気になった。当時、大映の人気を二分していた看板スターが勝新太郎と市川雷蔵だったが、2 人とも超イケメン。『座頭市』シリーズを選択し

た勝新は美男路線とは完全に縁を切ったが、市川雷蔵演じる、美男子で剣の達人の狂四郎が、なぜかニヒルで女に冷たいのが 1 つのポイントだった。その原因は、彼自身が告白しているように、「やんごとなき血筋の落し胤」であるため、性格がヒネくれてしまったためらしい。しかし、本作の主人公、新納鶴千代も「やんごとなき血筋の落し胤」であるにもかかわらず、今はゆすり、たかり、用心棒稼業で身を立てているのは、“やんごとなき方”とされる実の父親の名前を、今なお教えてくれないためらしい。

眠狂四郎は、祖父の大目付松平主水正の長女千津がオランダ医師で転びバテレンの男に犯されて生まれたそうだが、新納のホントの父親は誰なの？また、母親は誰なの？本作中盤にはその秘密を知る木曾屋政五郎（東野英治郎）が登場してくるので、新納の出自を巡る、新納と木曾屋の苦悩ぶりに注目！

■新珠三千代がストーリーのド真ん中に！■

私が中学時代に「全 6 部作」をオールナイトで観た『人間の條件』（59～61 年）は、仲代達矢演じる梶と、その妻・美千子（新珠三千代）との戦争という過酷な条件下でのラブストーリーだった。そこで見た新珠三千代のヌードシーンは、子供心にもよく覚えていた。その新珠三千代が、本作では新納の出自を巡るストーリーのキーパーソン（キーヒューマン）のお菊役として登場するので、そのストーリーにも注目！

あの荒々しい新納が、お菊の前ではなぜ急におとなしくなるの？それが最大のポイントだが、そこらあたりの事情はあなた自身の目でしっかりと。

■暗殺団参加の動機は、2人ともイマイチ・・・？■

徳川幕府が 300 余年も続いた理由の 1 つは「鎖国」政策のおかげだが、1853 年にペリーが浦賀沖に出現した後の日本は、尊王 vs 佐幕派に分かれて激しい権力闘争を繰り広げることになった。そこで次々と登場してきた「幕末の志士」たちは、それぞれ高い理想と志に燃えていたが、本作の主人公・新納鶴千代はもとより、新納より先に星野率いる水戸の暗殺集団に参加していた栗原栄之助（小林桂樹）も、参加の動機がイマイチ不明確だ。

そもそも、新納はたまたま知り合った水戸藩浪人との縁で、浪人の身から脱却して 200～300 石の禄を獲得するためには、腕に覚えのある剣術で誰もが認めてくれる成果を挙げる他ないと考えた単純なものであることは、彼自身が再三自白（豪語？）しているとおりだ。栗原は新納とは逆に、自分の身分や立場には何の不満もないが、学んだ知識や思想から「古い幕藩体制ではダメ、改革が不可欠」と考え、そのためには旧悪の象徴である大老・井伊直弼の暗殺が不可欠だと考えているわけだが、こりゃどうも頭でっかち気味だ。

そんな 2 人が無二の親友になった（？）のは、栗原の道場荒らしにやってきた新納が、栗原と対決する中で、互いの腕前を認め合ったためだ。しかし 2 人とも水戸藩所属ではないため、“ある事情”の中で栗原に対してスパイ容疑がかけられると、星野にはそれが確信に！そして、情報漏れを遮断するためにはスパイ斬りは不可欠だが、あの腕の立つ栗原がスパイだとすれば、栗原を斬れる男は新納しかいない。星野たち幹部がそう考えたのは当

然だ。星野たちからその話（依頼？命令？）を聞いた新納の心の揺れは？そして彼の決断は？その顛末は？それも、あなた自身の目でしっかりと。

■決行日は3月3日！新納の参加は？■

近時は暖冬が続いているが、私の中学高校時代に「国立一期校」の入試日とされていた3月3日は、「桃の節句」と言われているにもかかわらず、毎年最も寒い時期で、雪に見舞われることも度々あった。したがって、地球温暖化問題が存在しなかった徳川時代末期の1860年（安政7年＝万延元年）の3月3日の江戸には、大雪が降ること。

星野以下の水戸藩浪士からなる暗殺団は、各自がそれぞれの部署について井伊直弼の登場を今か今かと待っていたが、最後の最後になって長州浪人や薩摩浪人が脱落してしまった今、その人数は少なくなっていた。しかも、星野の計算ではここに新納は参加しないはずだった。それは、何ともバカバカしい“ある手違い”によるものだが、それについても、あなた自身の目でしっかり確認してもらいたい。

ところが、何と本作のクライマックスでは、いよいよ井伊直弼の行列が登場しようとする時になって、新納が「遅くなって申し訳ない」と弁解しながら駆けつけてくるから、アレレ、アレレ。人の良い(?)新納は、星野が決行日の早朝、自分に対して暗殺団を差し向けたことを知らなかったの？もっとも、新納はチラリと皮肉を込めて、そんな質問を星野に投げかけていたから、少なくとも疑いにくいのは持っていたらしい。そんな点は後日、「男は黙って・・・」のコマーシャルで有名になった三船敏郎のキャラクターでうまく煙に巻かれてしまったが、さて、いよいよ、これから井伊直弼の首を挙げようという一世一代の仕事に命を懸けて挑む新納の心境や如何に？

■こりゃ素晴らしい！大雪の中でのド派手な殺陣に注目！■

1963年に起きたケネディ大統領暗殺事件は、銃弾によるもの。1909年にハルビンで起きた、安重根による伊藤博文暗殺事件も、2022年7月に奈良で起きた山上徹也による安倍元首相暗殺事件も、もちろん銃撃によるものだ。しかし、徳川時代末期の「桜田門外の変」では、ただ1人星野だけは、しばらく後に坂本龍馬が愛用するようになった短銃を持っていたものの、基本的な武器は刀と槍。他方、井伊直弼が座る籠の周りには当然護衛されているから、その籠に向かって切り込み、籠の中の井伊直弼を突くなり斬るなりするのは大変だ。また、当然時間もかかるし、相応の犠牲も覚悟しなければならない。

映画『西部戦線異状なし』(30年)は塹壕戦とそこでの人間性を描いた名作中の名作だが、戦闘シーンはどうしても塹壕の中だから、泥まみれのものになってしまう。それに対して、大雪が舞う中での白刃による斬り合いになると、雪の白さと血の赤さが絶妙なコントラストを見せるから視覚的には美しい。もちろん、人と人との斬り合いは残酷で凄惨なものだが、爆弾や人肉が飛び散る塹壕戦より映像的にはよほど美しいから、本作ラストに見る素晴らしい殺陣に注目！

2023（令和5）年1月30日記